

二輪ギクの生産出荷体制の強化支援

要約

二輪ギクは葛城市の特産物（生産量日本一）であり、市場や華道家からは貴重な生け花の花材として認識されている。しかし、摘芽作業の労力負担が大きく、担い手の高齢化も相まって生産量が年々減少し続けている。そこで、省力的な県育成無側枝性品種の導入を推進するとともに、実需者ニーズに基づいた計画生産への誘導を行うことで生産出荷体制の強化を図った。

現状(背景)と課題

- 栽培労力の大きさや高齢化により生産量が減少
- 共選出荷量 35万本
- 県育成品種導入面積 3.6a
- 現地試作新規系統 3系統



目標

- 二輪ギクの出荷体制の強化
- 共選出荷量 37万本
- 県育成品種導入面積 10a
- 新規有望系統の検索 1系統

指導対象

- JAならけん葛城花卉出荷組合 26名、その他県内輪ギク生産者 66名

活動内容

- 県育成無側枝性品種「千都の風」「千都の恵」の導入推進と新規系統の試作・評価
- 実需者ニーズ調査（生花店・華道家・仲卸業者、計13か所）
- 有利販売のための生産出荷体制の整備に向けた啓発活動

成果

- 有利販売に向けた計画生産への意識醸成
- 共選出荷量の増加：36万本（1万本の増加）
- 県育成品種導入面積の増加：11.5a（7.9aの増加）
「千都の風」12戸、5.6a 「千都の恵」14戸、5.9a
- 新規有望系統の検索「1011R37」（平成27年度品種登録出願予定）



「千都の風」



「千都の恵」



新規有望系統「1011R37」

普及活動のポイント

- ・生産者と連携した有望系統の評価や試作活動による県オリジナル品種の育成・普及
- ・実需者ニーズ調査結果に基づく啓発活動
- ・普及(技術支援課・中部農林)、県内キク生産者、JA、研究、行政の連携による効率化

対象の変化

- ・継続した現地指導や啓発活動により県育成無側枝性品種の生産意欲が高まった。
- ・実需者のニーズを踏まえた生産出荷体制の整備や有利販売に向けた取り組みへの意識が高まった。

対象者からのコメント

- ・摘芽作業の労力負担が少ない無側枝性品種を育成してもらえることはありがたい。
- ・普及員の啓発活動によって産地のブランド強化に対する意識が高まり、産地を変えていこうという気運が高まった。

これからの活動ビジョン

- ・県育成無側枝性品種をさらに普及推進することで、労力の軽減や二輪ギクの生産出荷量の増加を図る。
- ・「千都の風」「千都の恵」に加え、「1011R37」を品種登録出願し、3色(赤・白・黄)揃った県育成オリジナル品種を積極的にPRして有利販売につなげる。
- ・実需者のニーズを踏まえた生産出荷体制の整備と市場等への事前情報の早期提供を推進し、有利販売を図る。

活動体制

